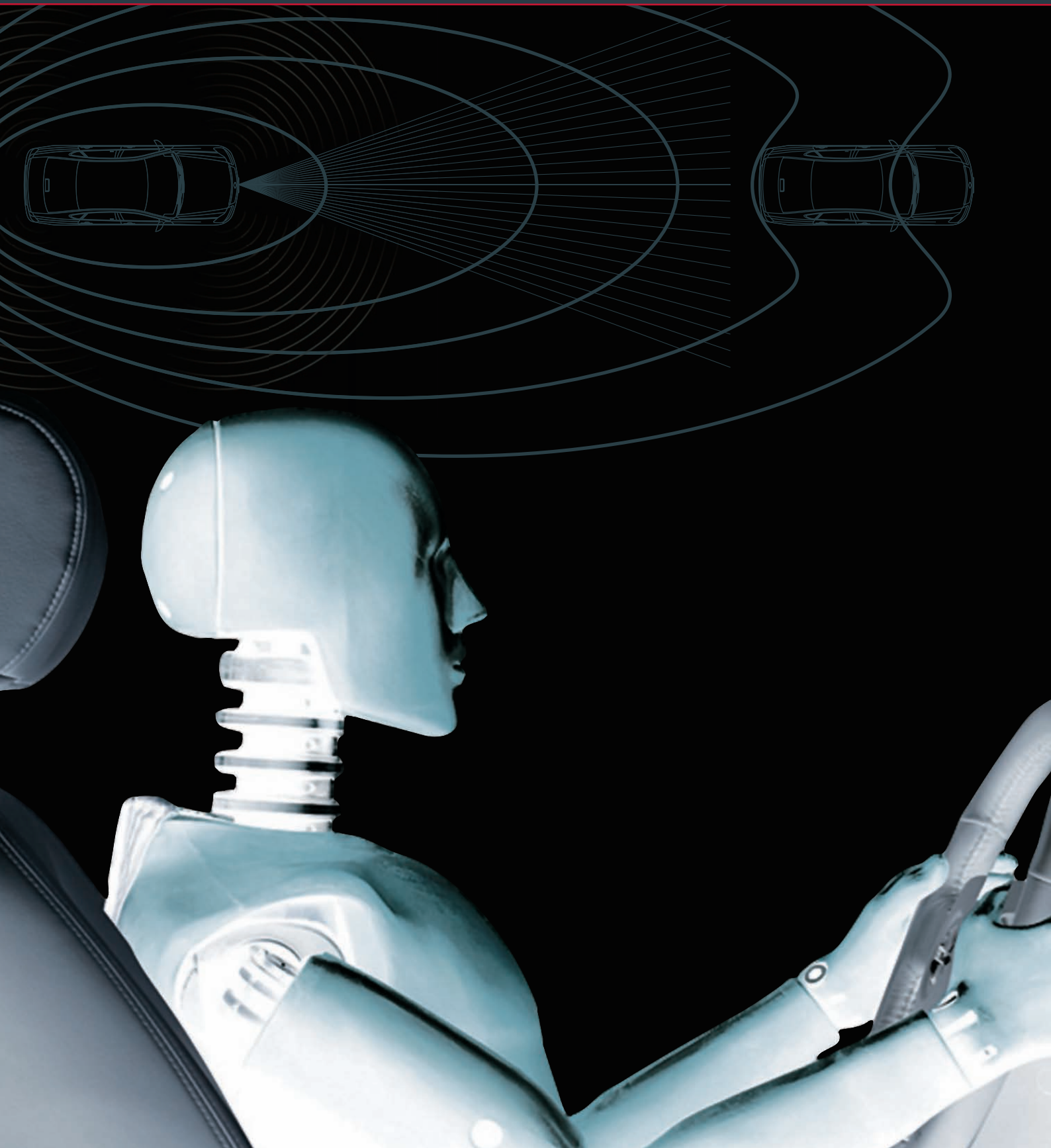


SAFETY ACTIVITIES

Technology Overview

安全に対する取り組み



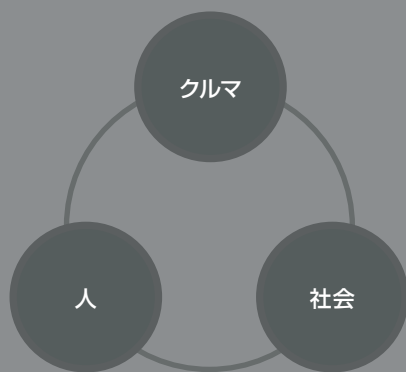
死亡・重傷事故半減を目指して
NISSANは事故分析に基づいた
安全技術の開発を進めています。

安全に対する取り組み

クルマは、自らが操りながら移動できる楽しく便利な乗り物です。

日産は、“走る楽しさと豊かさ”が感じられ、同時に高い信頼性・安全性を確保した、お客様に安心して乗っていただけるクルマづくりを目指しています。

そして、クルマそのものの安全性能を高めるだけでなく、ITS(Intelligent Transport Systems: 高度道路交通システム)などを活用した交通環境の改善や、ドライバーを始めとした「人」の安全意識を向上させるための啓発活動など、真に安全なクルマ社会の実現のために、様々な角度から幅広く取り組んでいます。



contents

SAFETY SHIELD「クルマが人を守る」という考え方	4
いつでも安心して運転できるようドライバーをサポートします	6
危険な状態になりそうなときも安全な状態に戻すようドライバーをサポートします	10
万が一衝突が避けられない時に被害を最小限にとどめます	13
交通環境への取り組み	17
「人」への取り組み	19

安全技術開発の考え方

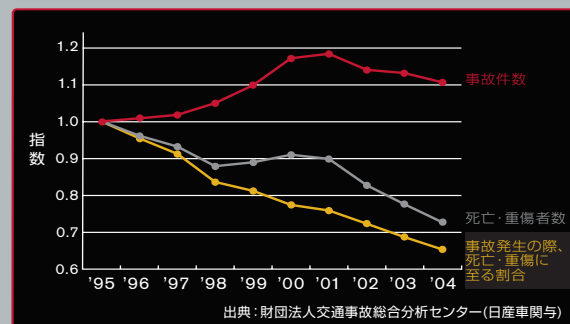
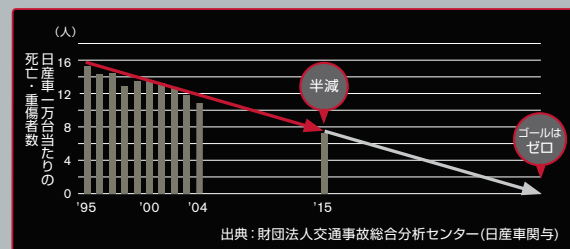
日産は、死亡・重傷事故ゼロを目指し、“Real World Safety”*(リアルワールドセーフティ)というコンセプトのもと、2015年までに、日産車がかかわる死亡・重傷者数を半減(1995年比)させる目標を掲げ、安全なクルマづくりを進めています。これまで、SRSエアバッグシステムやゾーンボディといった、万一の場合に乗員を保護する技術、ABS*やVDC*などに代表される危険回避のための技術、アクティブAFS*などの運転操作をサポートする技術と、様々な安全技術の開発、採用を進めてきました。その結果、日本で日産車が関与した事故の1万台あたりの死亡・重傷者数は、2004年には1995年比で27%減少するなど、着実な成果を上げています。

しかし、事故件数については増加傾向にあり、真に安全なクルマ社会を実現するためには、この原因を解明し対策することが必要です。

*Real World Safety: 現実の世の中で起きている事故の分析を基に、安全なクルマづくりを進めていこうという考え方

*ABS: アンチロックブレーキシステム *VDC: ビークルダイナミクスコントロール

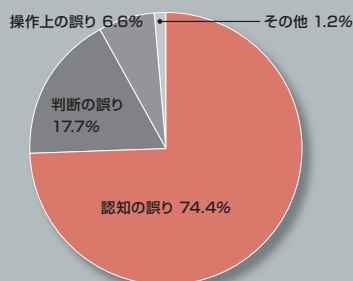
*AFS: アダプティブ・フロントライティングシステム





日産は、現実に行っている事故を分析した結果から「認知の誤り」が原因の大半を占めていることに着目しました。すなわち、事故を減らすためには、従来からの技術開発はもちろんのこと、人的な要因をサポートして、いかに安全な状態を維持することができるか、という一歩進んだ技術開発が重要となります。

日産車が加害者の事故における人的要因の分析



出典:財団法人交通事故総合分析センター('00)

そして、このような背景を踏まえて構築したのが「セーフティ・シールド」という、日産独自の安全に対する技術開発の考え方です。



SAFETY SHIELD

「クルマが人を守る」という考え方

通常運転から衝突後まで、クルマが状況に応じて様々なバリア機能を働かせ、少しでも危険に近づけないようサポートし続けます。

安全技術開発のプロセス

技術の開発においては、調査や検証が重要です。日産では、世界中から集められた事故データを分析、これを基にしたシミュレーションや実験により、事故を忠実に再現します。こうすることで課題を明確にし、安全技術を改良していくと同時に、新しい技術を開発していきます。このプロセスを繰り返し行うことで、安全性能を留まることなく進化させていきます。

